

腫瘍内科 卒後臨床研修プログラム 2～6ヵ月コース(内科(必修/選択))

I 研修プログラムの目的

臓器・診療科横断的臨床腫瘍学の基本を研修することにより、卒後臨床研修以降のサブスペシャリティ全てに共通する腫瘍学の基礎を修得する。

II 研修プログラム責任者

プログラム責任者： 大野 泉（科長代理 講師）

III 指導医

研修責任者： 大野 泉（科長代理 講師）

指導医： 沖津 恒一郎（医員）

IV 募集定員

5名（2～6ヵ月間）

V 教育課程

<基本的目標>

臨床腫瘍学の基礎を

1. 臓器横断的見地から研修する
2. 外来診療・入院診療の両面から研修する
3. チーム医療の中で研修する
4. 集学的治療の中で化学療法を中心とした治療学を研修する

<具体的目標>

1. 腫瘍学に必須の基礎医学の基本事項を理解する
2. 疾患・組織型・臨床病期による治療法の原則を理解する
3. 化学療法の適応を判断することができる
4. 患者—医療者、医療者—医療者のコミュニケーションスキルを研修する
5. 患者への病状・治療方針に関する説明ができる
6. 患者教育ができる
7. 代表的疾患につき、指導医とともに化学療法を施行することができる
8. 化学療法中の副作用対策ができる
9. 腫瘍緊急症の意義を理解し、代表的疾患の診断・評価・対処ができる
10. 緩和ケアの適応と方法を判断することができる
11. WHO 除痛ラダーによる鎮痛治療を実践できる

12. オピオイドの副作用対策ができる
13. がん患者の精神的な問題を理解し、専門家の指導を仰ぎつつ対処できる
14. 在宅医療・介護保険制度など社会的リソースを治療に取り入れることができる
15. がん治療における臨床試験・治験の意義を理解し、指導医とともに実施できる

VI 経験したほうがよい主要症候・疾患

<主要症候>

1. がん性疼痛
2. がん化学療法中のさまざまな副作用
 - a) 悪心・嘔吐・食欲低下
 - b) 血液毒性
 - c) 神経障害
3. がん治療過程中的のさまざまな合併症
 - a) 意識障害
 - b) 脊髄障害
 - c) 上大静脈症候群
 - d) 心タンポナーデ
4. 終末期患者の諸問題

<主要疾患>

1. 主要臓器悪性疾患（肺がん、乳がん、大腸がん、胃がん、頭頸部がん 等）
2. 複数臓器の重複がん
3. 原発不明がん
4. 胚細胞腫
5. 軟部肉腫

VII 週間スケジュール

曜日	午前	午後	夕
月	入院・外来診療		
火	入院・外来診療	入院・外来診療	抄読会
水	入院・外来診療	入院・外来診療	
木	入院診療	入院診療	
金	入院・外来診療	外来・入院症例・通院治療室カンファレンス	がんサージカルボード (開催不定期)